

心理支援に関する理論と実践

[講義・演習] 第1学年 前期 必修 2単位

《履修上の留意事項》生田倫子担当回、田中恒彦担当回は集中講義として実施する。

《担当者名》 今井 常晶 田中恒彦（非常勤講師） 生田 倫子（非常勤講師）

【概要】

公認心理師の業務に必要な心理支援の代表的な方法である、認知行動療法、家族療法、精神分析の理論と実際を理解する。

【学修目標】

公認心理師の業務に必要な認知行動療法の理論と実際を理解する。

公認心理師の業務に必要な家族療法の理論と実際を理解する。

公認心理師の業務に必要な精神分析の理論と実際を理解する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	認知行動療法の歴史を学ぶ	背景となる学習理論、認知科学の発展を学ぶことを通じて、認知行動療法の背景理論を学ぶ。	田中恒彦
2	行動療法 アセスメントとケースフォーミュレーション	学習理論に基づいた問題理解について学ぶ。	田中恒彦
3	行動療法 ケースフォーミュレーションに基づいた介入	学習理論に基づいた介入・支援について学ぶ。	田中恒彦
4	認知療法 アセスメントとケースフォーミュレーション	認知理論、情報処理理論に基づいた問題理解について学ぶ。	田中恒彦
5	認知療法 ケースフォーミュレーションに基づいた介入	認知理論、情報処理理論に基づいた介入・支援について学ぶ。	田中恒彦
6	精神分析的な精神療法の実際	無意識を想定したセラピーの概要	今井常晶
7	精神分析的な精神療法の実際	診断面接・治療契約・治療同盟	今井常晶
8	精神分析的な精神療法の実際	転移・逆転移	今井常晶
9	精神分析的な精神療法の実際	夢分析・抵抗	今井常晶
10	精神分析的な精神療法の実際	ワーキングスルー・終結	今井常晶
11	家族療法/ ブリーフセラピーの技法	多人数の人間関係を見立てるということ。	生田 倫子
12	家族療法/ ブリーフセラピーの技法	問題を持つ人が面接に来ない状況への対応。 システミックな見立てと介入。	生田 倫子
13	家族療法/ ブリーフセラピーの技法	問題を持つ人が面接に来ない状況への対応。 間接的介入の実際。	生田 倫子
14	家族療法/ ブリーフセラピーの技法	親面接への視座。使用する技法の組み合わせとシステミックな見立てについて。	生田 倫子
15	家族療法/ ブリーフセラピーの実際	親面接の実践。実際の面接技法と介入について。	生田 倫子

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

田中、生田、今井の3教員よりレポートが出題される。（100%）

【教科書】

別途指示する。

【参考書】

別途指示する。

【学修の準備】

< 授業時間外学習 >

予習（60～90分）：各回の関連キーワードについて、参考書、関連書、インターネットなどで調べておく。

復習（30分～60分）：学習内容を自分の言葉でまとめる。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、臨床現場において人の尊厳を重んじた科学者・実践家として社会に貢献することが期待できる能力を修得するという臨床心理学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

4名とも公認心理師

【実務経験を活かした教育内容】

多方面の専門家からの臨床経験を学び、現場での心理臨床活動能力を高める。